



各位

平成22年11月5日

会社名：カルソニックカンセイ株式会社
 代表者名：取締役社長 呉 文精
 (コード番号 7248 東証第1部)

問合せ先：経理・財務本部
 連結会計グループ 部長 羽鳥 伴彦
 TEL (048) 660 - 2202

当社の親会社：日産自動車株式会社
 (コード番号 7201 東証第1部)

平成23年3月期の連結業績予想の修正等及び剰余金の配当に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成23年3月期の連結業績予想の修正等及び剰余金の配当について下記のとおりお知らせいたします。

尚、平成22年5月14日の決算発表時に公表いたしました、平成23年3月期の業績予想では第2四半期累計期間の業績予想は公表しておりませんので、当業績予想の修正は前年第2四半期累計期間の実績値と比較しております。

1. 平成23年3月期第2四半期累計期間 前期実績との差異 (平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	一株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前年第2四半期累計期間(A)	275,589	△ 9,407	△ 9,901	△ 11,762	△ 43.89
今回実績値(B)	377,550	9,251	8,521	4,591	17.13
差額(B-A)	101,961	18,658	18,422	16,353	—
差額率	37.0%	—	—	—	—

2. 平成23年3月期 通期連結業績予想数値 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A) 平成22年5月14日発表	670,000	10,000	8,000	2,000	7.46
今回修正予想値(B)	720,000	15,000	13,000	6,000	22.39
増減額(B-A)	50,000	5,000	5,000	4,000	—
増減率	7.5%	50.0%	62.5%	200.0%	—
(ご参考)前期実績	619,449	△ 5,699	△ 6,167	△ 13,281	△ 49.55

3. 業績予想修正の理由

(1) 平成23年3月期第2四半期累計期間

当社グループはこれまで続けてきたコスト削減活動・コスト競争力の向上をさらに加速させつつ、新興市場でのビジネス拡大など、マーケット環境の変化に応じた数多くの施策に取り組んでまいりました。更にモノづくりコストの削減活動として、部品点数の削減や購買・物流の改善活動に加え、取引先と共同で、新車の企画段階から原価低減活動を進めております。

また、当社グループの主要製品のの一つである熱交換器製品につきましては、9月に厚木工場での生産を終了し、群馬工場を中心に統合するなど、需要に応じた生産能力の最適化、コスト競争力の強化を行いました。

その結果、当社グループの売上高は、主要得意先の販売台数の増加等により3,775億円となり前年同期に比較して1,019億円（37.0%）の増収となりました。

一方、利益面につきましては、台数増の影響及びグループあがての原価低減・固定費コストの削減活動等の効果により、営業利益は92億5千万円となり、前年同期に比較して186億5千万円の増益となりました。また、経常利益は、為替差損益、持分法投資利益の増加等の影響により、85億2千万円の利益となり、前年同期に比較して184億2千万円の増益となりました。四半期純利益につきましては、45億9千万円の利益となり、前年同期に比較して163億5千万円の増益となりました。

(2) 通期連結業績予想

通期の業績予想につきましては、第2四半期累計の連結業績、取引先の車両生産台数の堅調な推移及び更なるコスト削減活動を推進させるものの、各国の景気刺激策の終了や円高による為替影響等による下振れ懸念が予想されることに鑑み、上記のとおり修正いたします。

4. 剰余金の配当（中間）

	決定額	直近の配当予想 (平成22年5月14日)	前期実績 (平成22年3月期)
基準日	平成22年9月30日	同左	平成21年9月30日
1株当たり配当金	0円00銭	未定	0円00銭
配当金総額	—	—	—
効力発生日	—	—	—

(理由)

当社は、本日開催の取締役会において、現下の財務状況に鑑み、誠に遺憾ではございますが、平成23年3月期の中間配当を見送ることを決議いたしました。

なお、期末配当予想につきましては、現時点では引き続き未定とさせていただき、今後の業績推移や経営環境を総合的に勘案して、予想額の開示が可能になり次第速やかに開示いたします。

※上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上